

教師ノート

週課	第一年 第二課 第二週
単元	マタイの福音書・2
テーマ	弟子となり、派遣される者となる
タイトル	収穫は多いが働き手が少ない
テキスト	マタイ9:35～10:10
参照箇所	マタイ10:11～15、マルコ6:7～11、ルカ10:1～20
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ9:37b～38
AG 日曜学校教案参照箇所	

□導入

イエスさまの生涯の中で、弟子を育てて用いることは、最も重要な仕事のうちのひとつでした。イエスさまひとりではなさるのではなく、弟子たちにも力を与え、多くの働き手によって、伝道したり、病気をなおしたりなさるためです。

□ポイント1 イエスさまは「収穫は多いが働き手が少ない」とおっしゃいました(9:35～38)

先週の「百人隊長のしもべのいやし」の記事から、今日のテキストまでの間に、イエスさまは、ペテロの姑をいやし(8:14-17)、嵐を静め(8:23-27)、墓場でふたりの人から悪霊を追い出し(8:28-34)、中風の人をいやし(9:1-8)、会堂管理者の娘と長血の女をいやし(9:18-26)、2人の盲人をいやし(9:27-31)、悪霊につかれて口のきけなかった人をいやされました(9:32-34)。たくさんすばらしいみわざを表されたので、イエスさまの「うわさはその地方全体に広まっ」ていきました(9:26)。さらにイエスさまは、イエスさまは、町や村を巡って、福音を宣べ伝えたり、病気をいやしたりなさいました。

そうやって、大勢の人にお会いになったイエスさまは、その人々が弱り果て、倒れているのをご覧になり、非常に悲しい気持ちになられました。人々は住む所や食べるものが充分では無かったです。また、病気の人や、お金がなくて困っている人も多かったです。しかし、それだけでなく、「羊飼いのない羊のように弱り果てて倒れて」いたということです。これは、神さまのみことばを伝えてくれる人がいなくて、心が弱ってしまっていたということです。神さまの愛・救い・祝福・いやし・励ましなど、人々の「心」に必要なものを与えてくれる人がいなかったために、人々は弱り果てていたのです。

その時、イエスさまは「収穫は多いが、働き手が少ない」とおっしゃいました。これは、こんなにも、イエスさまの愛に飢え渴いて、福音を待ち望んでいる人が大勢いるのに、それを伝える人がいないという意味です。大きな農園に実っているたくさんの果物を、ひとりで収穫しては間に合いませんね。せっかう実った実を、ちょうどよい時に収穫しないで放っておくとどうなるのでしょうか？今イエスさまの愛を必要として、すぐに福音を受け入れる準備ができて人をほうっておいたらどうでしょうか。多くの実を収穫するには、多くの働き人が必要です。イエスさまは、弟子たちに「働き手を送ってくださるよう祈りなさい」とおっしゃいました。

☞この箇所は、原語(ギリシャ語)では、非常に強い言葉で表現されている。「弱り果てて」は、本来「皮をはがれる・追い詰められて疲れ果てる」という意味。「倒れている」は「打ちのめされている」という意味で、「かわいそうに」は「内臓が揺り動かされる」という意味。

□ポイント2 イエスさまは、弟子たちに権威をお授けになりました(10:1~4)

イエスさまは12弟子を呼び寄せられました。そして、弟子たちにご自分のもっておられる権威をお授けになりました。これで、弟子たちも、イエスさまと同じように、悪霊を追い出したり、病気を治したりすることができます。イエスさまは、弟子たちに力を与え、困っている多くの人たちのために、働くことができるようにしてくださったのです。

その弟子とは…ペテロ・アンデレ・ヤコブ(ゼベダイの子)・ヨハネ・ピリポ・バルトロマイ・トマス・マタイ・ヤコブ(アルパヨの子)・タダイ・シモン・ユダです。

□ポイント3 イエスさまは、12弟子を送り出されました(10:5~10)

イエスさまは、弟子たちをイスラエルの民のところへ遣わされました。異邦人(イスラエル人以外)のところではなく、まず、イスラエル人のところに行くようにとおっしゃいました。そして、「天の御国が近づいた」と宣べ伝えるように命じられました。つまり、「悔改めて、救い主を信じるなら救われる」という福音を伝えるために遣わされたのです。また、病人を直したり、悪霊を追い出したりするように命じられました

☞〈9~42節まで〉派遣についての心得や、直面する迫害、働き人の報いなどについての教え。

□結論 イエスさまは、12弟子に権威を授け、送り出されました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. あなたも、イエスさまの弟子として、世の中に送り出していただくように祈りましょう！！

「働き手を送ってくださるよう祈りなさい」というのは、「あなたの所に伝道者を送ってくださるよう祈りなさい」…という意味だけではありません。なぜなら、イエスさまは、あなたに「働き手」になって欲しいと思っらっしゃるからです。みなさんで、多くの人に福音を伝えて欲しいと、願っておられるのです。確かに、あなたは「世界の人の救いのために、働き手を送ってください！」と祈るのですが、それに応えるのも、あなたです！世界の人の救いのために、「主の働き手」になるのは、私たち自身なのです。「送ってください」と祈ると同時に、「私を遣わしてください」と祈りましょう！イエスさまも、自分の場所にとどまって人が来るのを待っていたのではなく、自分から出向いて、町や村を訪ね歩いてくださいました。あなたも、自分から、弟子として世の中に送り出していただくように祈りましょう！！あなたの家族やお友だちはみんなイエスさまを信じていますか？日本では100人のうち99人はイエスさまを信じていません。イエスさまを必要としている人が多いのに対して、イエスさまのことを伝える人が足りませんね。神さまの愛を伝える弟子として、イエスさまがあなたを送り出してくださいるようにお祈りしましょう。

2. イエスさまから力をもらって、「主の働き手」になりましょう！！

イエスさまは、あなたにできないことを無理やり「やれ！」と命令するようなお方ではありません。弟子たちにも、いきなり「病気を治せ！」とはおっしゃいませんでした。イエスさまは、お手本を示してくださいました。弟子たちは、まずイエスさまが、病気を直したり、悪霊を追い出したりなさるところを見ることができたのです。イエスさまは、その上で、必要な力を弟子たちに与えてくださいました。弟子たちが送り出されたのは、そのようにイエスさまに育てられ、力を与えられた後でした。あなたを育て、力を与え、用いてくださるのはイエスさまです。あの12弟子も、イエスさまから力をいただいたから、弟子としての働きができたのです。今、あなたは弱いかもしれませんが、でも、自分を見てよくよするのはやめましょう。お祈りして、イエスさまの力をいただきましょう！あなたも、教会の先生に教えてもらって、少しずつ「働き手」として成長することができます。神さまの力に頼り、イエスさま100%でいきましょう。私たちは0%でいいのです。あなたはどんな働きがしたいですか(牧師・教会学校の先生・奏楽・お友だちを教会に誘う・困っている人を助ける、など)？